

# 2007年度連結決算と2008年度連結業績見通し

2008年5月8日  
(株)メタルワゴン

損益計算書	( )下記注記ご参照							
	2007年度実績 (15ヶ月間)		参考:12ヶ月間実績 (2007年1~12月)		2006年度実績 (増減は2007年1~12月との比較)			
(単位:億円)	連結	単体	連結	単体	連結	増減	単体	増減
売上高	35,527	21,063	30,500	16,795	27,467	3,033	15,779	1,016
総利益 (総利益率)	1,705 (4.8%)	527 (2.5%)	1,499 (4.9%)	431 (2.6%)	1,462 (5.3%)	37	462 (2.9%)	31
営業費	1,038	337	897	268	836	61	245	23
貸倒費用	10	1	8	0	2	6	4	4
暖簾償却	8		6		4	2		
営業利益	649	189	587	164	620	33	213	49
受取利息	13	11	11	7	8	3	5	2
支払利息	75	22	67	17	56	11	8	9
利息収支	63	11	56	9	47	9	4	5
受取配当金	35	175	30	121	21	9	98	23
その他営業外収益	31	3	26	2	34	8	3	1
その他営業外費用	49	37	42	32	40	2	26	6
持分法利益	58		56		49	7		
経常利益	661	319	601	246	637	36	284	38
特別利益	53	37	40	31	72	32	40	9
特別損失	15	14	19	18	24	5	8	10
税引前利益	699	342	622	259	685	63	315	56
法人税等	266	87	233	71	246	13	103	32
少数株主利益	42		39		40	1		
当期純利益	391	255	351	188	399	48	212	24

基礎収益	689	625	645	20
------	-----	-----	-----	----

基礎収益=営業利益(貸倒費用を除く)+利息収支+受取配当金+持分法による投資損益

( )12ヶ月間実績の参考表示について  
2007年度において従来の12ヶ月から3ヶ月への決算期変更を行っており、損益計算書は会社法にも準拠し15ヶ月間での表示とされているが、本資料においては、前年度との比較を目的に12ヶ月間の実績(2007年1~12月)を参考として表示している。

連結貸借対照表	2008年3月末		2008年3月末		
	2006年12月末	2006年12月末	2006年12月末	2006年12月末	
(単位:億円)					
流動資産	9,528	132	流動負債	8,161	194
現金及び預金	354	19	取引債務	4,665	193
取引債権	7,317	2	短期借入金	3,115	78
棚卸資産	1,642	114	その他の流動負債	381	76
その他の流動資産	216	37	固定負債	1,062	74
			長期借入金	728	54
			その他の固定負債	333	129
固定資産	2,901	13	負債合計	9,222	120
有形・無形固定資産	1,183	140	資本金・資本剰余金	1,500	0
投資その他の資産	1,717	127	利益剰余金	1,003	167
			評価・換算差額等	379	187
			(少数株主持分を除く純資産計)	2,882	20
			少数株主持分	325	45
			純資産合計	3,207	25
資産合計	12,429	145	負債及び純資産合計	12,429	145

連結対象会社数	連結対象会社		
	子会社	関連会社	連結対象計
事業投資先	101( 2)	53(+ 2)	154( ± 0)
国内・海外法人	18( ± 0)		18( ± 0)
合計	119( 2)	53(+ 2)	172( ± 0)

(注)・カッコ内は前年度末からの増減  
・孫会社を除く連結対象子会社は74社、このうち決算期変更を行った子会社は53社、尚、関連会社は決算期変更を行っていない。

連結財務指標	2008年3月末		2006年12月末	
	株主資本比率	23.2%	23.6%	
D/E レシオ	1.20	1.17		

## 2007年度 連結決算の概要

### 【2007年度の概況】

世界的な鉄鉱石・石炭や原油をはじめとする資源関連の高騰や各種素材価格の上昇、また米サブプライムローン問題の世界経済への影響等が懸念されたが、新興国の経済発展に支えられ、世界全体の景気は全般的に概ね堅調に推移。わが国経済においても、原材料価格の高騰により企業収益悪化が懸念された経済環境のもと、全般的には設備投資の増加や堅調な外需により高い生産水準が維持された。

鉄鋼業界においては、自動車・造船等の製造業を中心とした高級鋼分野を中心に国内外の需給が引続き堅調に推移することが予想される一方、逼迫する製鉄原料の影響による鋼材価格の上昇や改正建築基準法などが、住宅・建設等の一般消費者関連の投資意欲に影響を及ぼしている。

こうした環境下、建材を始めとする国内取引、及び自動車関連取引が堅調に推移し、当期売上高は3兆5,527億円(決算期変更の影響5,027億円も含めて前年度比8,060億円の増加)、経常利益は661億円(決算期変更の影響60億円も含めて前年度比24億円の増加)といずれも過去最高となり、当期純利益は391億円(決算期変更の影響40億円も含めて前年度比8億円の減少)となった。

### 【経営成績】

#### 1. 2007年1~12月の状況

##### (1) 売上高、総利益

前年度に引続き、厚板や建材、輸出に牽引された自動車関連等の国内取引を中心として全体的に堅調に推移した。この結果、売上高は前年同期比3,033億円増加の3兆5,000億円となり、メタルワゴン設立以来、初の3兆円台突破となった。総利益は、市況の影響を受けた一部の子会社の総利益率低下により全体の総利益率も低下したが、売上高の増加により前年同期比37億円増加の1,499億円となった。単体は堅調な国内需要により、主に国内取引での売上高が増加した。子会社においては米国経済の減速により北米では減少したが、国内が堅調に推移し売上高増となった。

##### (2) 営業費

営業費は人件費等の増加により、前年同期比61億円増加の897億円となった。

##### (3) 特別損益

特別利益は、前年度の反動減により、前年同期比32億円減少の40億円となった。

##### (4) 取引種類別・対面業種別の取引状況

取引種類別では、売上高は国内が2兆2,065億円と全体の72%、次いで輸出が4,066億円と13%、海外が4,037億円と13%となった。

総利益は国内が987億円と66%、海外が273億円と18%、輸出が235億円と16%となっている。

対面業種別売上高は、自動車、建設、及び流通向けに50%超となっており、電機、産機等が続いている。

#### 2. 2008年1~3月の状況

2008年に入り、サブプライムローン問題の影響等により急激な円高進行も見られる中、業績は総じて堅調に推移している。今回の決算ではメタルワゴン単体、及び国内外子会社53社が決算期変更を行い(決算月を12月から3月とする)、15ヶ月間の損益を連結している。当該3ヶ月間においても引続き国内取引を中心に堅調であり、売上高5,027億円、総利益207億円、純利益は40億円となった。(2007年度に決算期変更を行わなかった子会社21社での2008年1~3月の間の業績は、2008年第1四半期に連結される。)

### 【財政状態(2008年3月末)】

#### 1. 総資産、株主資本

堅調な鉄鋼需要による取引拡大及び鋼材価格の上昇により取引債権が増加し、2008年3月末における総資産は前年度末(2006年12月末)比145億円増加の1兆2,429億円となった。総資産の内訳は流動資産が約8割を占めており、前年度に引続き流動性の高い財務構造を維持している。一方、少数株主を除く純資産は、連結剰余金の増加があったものの、株価の下落による有価証券評価差額金の目減りなどにより、前年度比20億円減少の2,882億円となった。但し、株主資本比率は23.2%と前年度末と同水準となっており、財務の健全性を引続き維持している。

#### 2. 有利子負債

受取手形の流動化による有利子負債圧縮実施をしているが、堅調な国内取引、及び販売価格上昇を反映して資金需要は増加しており、有利子負債は前年度末比132億円増加し3,843億円となった。

### 【関係会社の状況】

2007年度においては、東海地区の薄板加工販売業者である葵商店の株式取得・子会社化や、日建産業からの鋼管事業部門の買収等による業容拡大を展開する一方、国内薄板取引における機能子会社の合併や海外・中米地域における鋼材加工会社の再編を行うなど、グループでのバリューチェーンの強化を図った。この結果、国内子会社については国内需要が堅調に推移したこと等により総じて増益となった。海外子会社については、米国経済の減速により北米では減少したものの、アジアにおいて好調であったため、全体としては増益となった。

## 2008年度 連結業績見通し

2008年度 業績見通し (08年4月~09年3月)	
売上高	3兆6,000億円
総利益	1,700億円
経常利益	660億円
当期純利益	365億円

( ) 2008年度にも一部の子会社が決算期変更を予定しており、15ヶ月決算となる。上記2008年度業績見通しはその影響額を含む。

#### 1. 売上高、総利益

国内外とも堅調な鉄鋼需要を背景に、販売数量増加に加え、鋼材価格も上昇が見込まれている。また新たにステンレス厚板加工・販売会社である西鋼の全株式を4月1日付で取得、完全子会社化する等、引き続きバリューチェーンの強化を進める。これらの結果、売上高は3兆6,000億円となる見通しである。但し、米国経済の減速懸念に加え、原料高による鋼材価格値上の浸透までに時間を要すると予想されることから、総利益率は低下する見通し。これらの結果、総利益は1,700億円となる見通しである。

#### 2. 経常利益

販売数量増と価格上昇に伴って運転資金負担が増加し、金利収支が悪化する見通し。この結果、経常利益は660億円となる見通しである。

#### 3. 当期純利益

前年度の特別利益の反動減を見込んでおり、当期純利益は365億円となる見通し。これにより、中期経営計画における2008年度の数値目標であった350億円を上回る見通しである。